

収入向上・女性自立

アムグオ村のNTP (ナバルタビ・プロダクション) 現況

マトトン山麓のビラーンの村アムグオでナバルタビ織保存と織り手の育成に取り組むNTP担当のスヌーリアから、2名の新規参加者の紹介がありました。ファガベイさん(65歳)、ラバさん(47歳)です。昨年8月に亡くなったソーニャさん亡き後、一人で織り続けてきたアナベルさんと合わせて3名に織を継承してもらいます。

織り手の収入は、現時点で最大の顧客である私たちが定期的に購入する製品代支払い(33cm幅の織で600ペソ/m)に頼っている状況で、新規に加わった2名については、研修期間6か月間は月2000ペソ支援することにしました。

私たちが松尾基金で支援した織りの家(写真上:2006年末の竣工時)は、竹壁や床の竹が傷んできました(写真下:2016年12月)。ある程度のスペースが必要な織の作業は、糸づくりや染の工程を含めて、これまで同様、織りの家を使います。この補修について、NTP担当スヌーリアから右のような支援申請がありました。

当面は壁と床補修のための竹材購入費9,400ペソの支援とし、その他は、新年度予算の中で検討することにしたいと思います。

また、ビラーンもチボリと同様に、民族衣装マロンの手織り技術がありますが、この織機(3,500ペソ)についても支援要請がありました。ビラーンの伝統継承・収入向上支援は、次年度予算案策定時に検討の予定です。



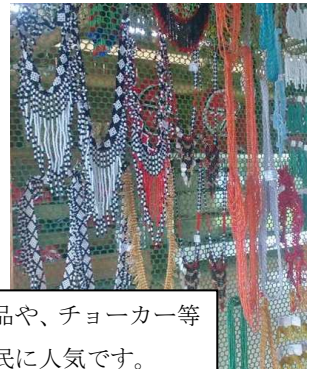
壁用竹:	3,400
床用竹:	6,000
角材、板材:	12,000
大工・労務費:	9,000
	(ペソ)

COWHED 現況

— フェイスブックの写真から —

クリスマス休暇のほか、3月の卒業式シーズンに続く夏休みも、「サウスコタバトの夏の都」レイクセブ町にとってお客さんの多い時期です。湖畔のリゾートホテルやセミナーハウスに滞在する団体や観光客に備えて、COWHEDも貿易産業省第12行政区の認証額(写真左端)に恥じない良質の製品作りに励んでいるようです。

中には私たちの注文に応じての作業なのか、赤と生成りのティナラク生地で靴型キーホルダーを作っている画面もあります(左から2番目)。フィリピン国内市場が拡大したCOWHEDですが、日本でも特に、キーホルダーやカード入れ等ティナラク織小物は人気があります。3月のイベントに向けて、年末に各種注文を済ませました。



民族衣装の技術を応用した各種刺繍製品や、チョーカー等のビーズアクセサリは、特に地元市民に人気です。

今年もミンダナオの文化紹介と販路拡大を!

— ボランティア新春ミーティングから —

横浜でも小雪が舞った大寒の1月20日、今年初のボランティアの集いをしました。出席者は6名と少なめでしたが、参加決定済みの3月のあざみ野の女性フォーラム、市民活動フェア、案内が届いた5月の「あーすフェスタかながわ」など、春先からの参加イベントについて打ち合わせをしました。

この集まりの5日前に、毎回イベントで使用する団体名入り横断幕の製作者今泉さんの訃報が届きました。現地訪問では、植林や巡回診療同行もし、PIHSにもしばらく滞在して、その体験記はホームページで紹介させていただいています。

今泉さんが最後まで心に懸けて下さったハンディクラフトの販路拡大に向けて今年も皆様とともに頑張りたいと思います。ご冥福をお祈りいたします。(山崎)



今泉さん製作の横断幕の前で
左から
高山、香月、中島、村山、藤川
(撮影:山崎)